

【オリコンサルグローバル パプアニューギニアの空港で JICA 理事長視察受け入れ】

## パプアニューギニアの空港で JICA 理事長視察受け入れ

オリコンサルグローバル

オリエンタルコンサルタンツグローバルは25日、同社が詳細設計などで携わる「パプアニューギニア国ナザブ・トモダチ空港整備事業」のプロジェクトサイトで、視察に来た国際協力機構（JICA）の田中明彦理事長を迎えたと発表した。田中理事長は19日に空港施設を視察し、「空港名に『TOMODACHI』（トモダチ）を冠することは、パプアニューギニアと日本の友好を象徴するものだ」とコメントした。

同事業は日本政府の有償資金協力で行っている。レイ市郊外で同空港の既設滑走路、既設誘導路、駐機場、航空灯火の機能向上、旅客ターミナルビル（S造2階建て延べ約1万0740㎡）・駐車場の新設を中心に新ターミナルを整備する。オリエンタルコンサルタン



新設された旅客ターミナル  
（報道発表資料から）

ツグローバルは梓設計と組成する共同企業体の幹事会社として詳細設計、入札支援、施工監理などのコンサルタント業務を実施している。

同国本島は東西に稜線（りょうせん）が走る急峻（きゅうしゅん）な地形。首都ポートモレスビー市と、第2の都市レイ市を結ぶ交通手段が空路以外になく、航空輸送はヒトやモノの移動にとって重要なインフラとなっている。ナザブ空港は進化する旅客輸送のニーズに対して設備が十分に整っておらず、ターミナルビルの老朽化も著しく、旅客手荷物や保安検査などの大半を人力で処理している。航空灯火などの空港保安設備も更新時期を迎えている。